

第1期佐久穂町コミュニティ創生戦略  
(佐久穂町まち・ひと・しごと創生総合戦略)

平成27年度～令和元年度

総評価書

令和2年7月

佐久穂町

## 目次

I 「佐久穂町コミュニティ創生戦略」及び「佐久穂町人口ビジョン」の評価について	1
1. 趣旨	1
2. 概要	1
(1) 総合戦略	1
(2) 人口ビジョン	2
3. 検証体制	3
4. 総合戦略と人口ビジョンの理念に対する評価	3
(1) 総合戦略	3
(2) 人口ビジョン	4
II 数値目標と重要業績評価指標(KPI)の進捗評価について	5
1. 進捗状況の評価方法	5
2. 進捗評価結果	5
(1) 数値目標	5
(2) 重要業績評価指標(KPI)	5
基本目標Ⅰ【地域コミュニティ】	
「住み続けたい」という意思を尊重しすべての既存集落における居住機能を担保	6
基本目標Ⅱ【子育て・教育コミュニティ】	
「住み続ける誇り」を養い「選ばれる町の魅力」をもたらす子育て・教育環境の形成	11
基本目標Ⅲ【地域経済創造コミュニティ】	
地域に根差した「しごと」、「なりわい」の起業や事業育成環境の形成	15
基本目標【ⅠⅡⅢ横断】	
コミュニティを横断的に下支えする基盤の形成	21

# I 「佐久穂町コミュニティ創生戦略」及び「佐久穂町人口ビジョン」の評価について

## 1. 趣 旨

まち・ひと・しごと創生法(平成26年法律第136号)が公布・施行され、本町ではこの基本的な考え方のもと、平成27年度から令和元年度までの5か年を計画期間とする「佐久穂町コミュニティ創生戦略(佐久穂町まち・ひと・しごと創生総合戦略)」を策定し、3つの対象コミュニティへの重点支援とコミュニティを横断的に下支えする基盤の形成に向けて各種施策の取組を進めてきました。

今回、これまでの取組や数値目標の達成度を検証し、改めて基本的な考え方に立ち、長期的、多角的な視点から総評価を行います。

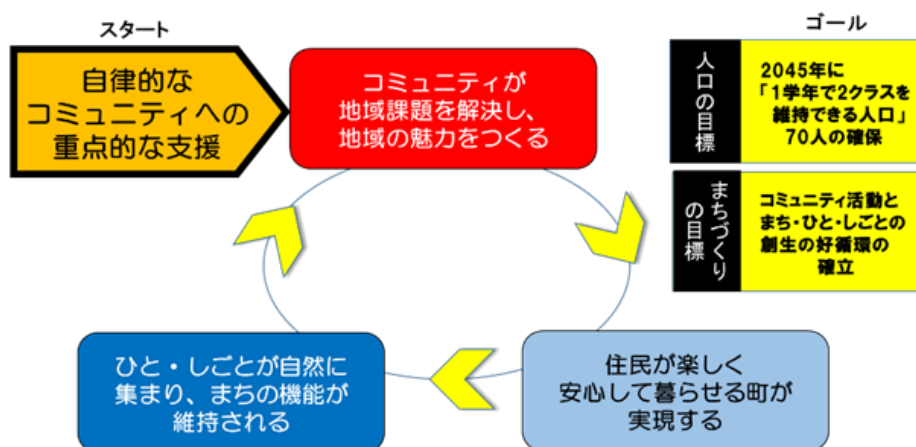
また、評価結果から第2期佐久穂町コミュニティ創生戦略の施策や事業の改善に役立てていきます。

## 2. 概 要

### (1)総合戦略

目指すべきまちの姿

『自律し多様なコミュニティが人々の暮らしを支え、挑戦や行動を支援するまち』



町は、地域課題の解決に自律的に取り組むコミュニティの活動や設立に対して重点支援を行うことで、地域課題を解決し、魅力をつくるための活動を推進し、多様なコミュニティが形成され連携して暮らしを支えることで、住民がいつまでも安心して暮らせる地域の実現を目指します。

また、その結果として、佐久穂町の「コミュニティ」やその活動に魅力を感じる人が自然に集まり、まちの機能が維持され、転入者や住民がさらに行動し挑戦することで、仕事や魅力が創出され続ける好循環の実現を目指します。町内に一定規模の年少人口と生産年齢人口を確保し、地域の生活基盤や経済を維持・発展させ、将来にわたって自らの力で継続できる町を構築します。

また、本戦略で定める施策や事業が作用し、効果の現れることを最も期待するターゲット層を「出産年齢人口層、特に女性」と設定し、取組を進めていきます。

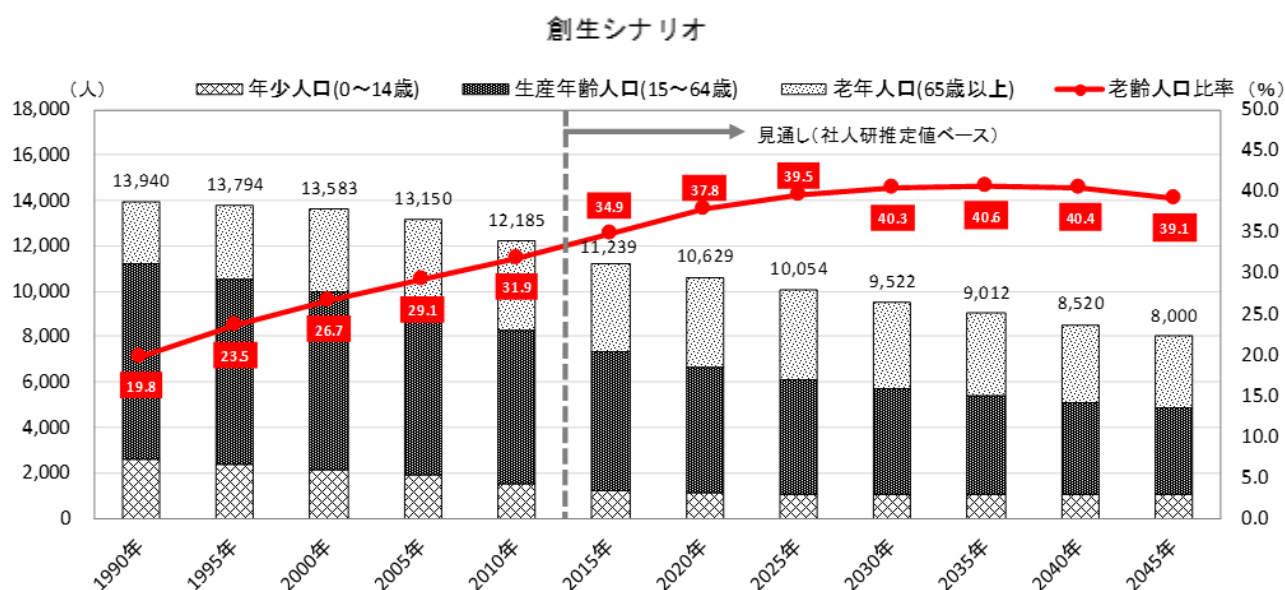
## (2)人口ビジョン

人口の将来展望－全体の人口－

『2045年に小学校入学時1学年2クラス(70人)を維持できる人口を目標』

日本創成会議によれば、町の20～39歳女性人口は2010年～2040年の間に52.5%減少すると推計され、「消滅可能性都市」の1つとなっています。この現実を受け止め、将来にわたって持続する町にしていくために、また、町民が幸せな暮らしを営んでいくために、町の現状を正確に把握し、将来の姿を展望するとともに、町民とともに将来を考えることで、真に活力ある地域を創造します。

人と人とのつながりを次世代につなげていくという観点から、子どもたちの人口を維持していくことが重要です。地域のコミュニティ、学びのコミュニティの活力を維持していくために、2045年まで1学年70人以上の児童を維持していくことを目標とします。



出典：2010年まで長野県毎月人口異動調査(各年4月1日)

※2004年までは佐久町、八千穂村の合算値

国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』2013年3月をベースに再計算

### 3. 検証体制

「佐久穂町地方創生推進会議(以下、「推進会議」という。)」において、これまでの取組や数値目標の達成度などを検証し、「佐久穂町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進本部(以下、「推進本部」という。)」に報告します。また、推進本部において評価・検証を行い、議会へ報告、住民の皆さんへ公表します。

### 4. 総合戦略と人口ビジョンの理念に対する評価

#### (1) 総合戦略

成果	ア. 本戦略の策定において、各分野から幅広く住民の意見を反映したことで、コミュニティが担い手となり、地域課題を解決する取組へ重点的に支援するという基本方針ができた。その結果、自律的で持続力のあるまちづくりに向けた方向性を示すことができ、町とコミュニティとの協働による事業が生まれ始めた。
課題	<p>イ. 各コミュニティが人口減少・経済縮小などの環境の変化や構成員の生活様式の変化に対応して、活動のあり方や手法を見直すことができていない。</p> <p>ウ. 本戦略が目指すまちの姿を実現するために、住民と町が戦略を把握し、お互いの役割を理解し、具体的な行動につなげることが不足していた。</p> <p>① 住民においては、本戦略の認知度が低く、町においては、本戦略に基づく具体的な行動が少ない。</p> <p>② 本戦略を具体化するためには多くの人の関わりが必要であるが、プレイヤーが少なく、多くの人の関わりが生まれていない。</p> <p>③ 地域課題の解決に自律的に取り組むことに対し、住民の負担感が大きく、「住民ができること」「町が担うこと」という役割分担が不明確であった。</p> <p>④ 町はコミュニティの力を引出したり、促したり(ファシリテート)、つないだり(コーディネート)することができる人材の育成が不十分であった。</p>
今後の取組方針	<p>ア. 引続きコミュニティが担い手となり地域課題を解決する取組へ重点的に支援していく。</p> <p>イ. 人口減少が確実である中、コミュニティの重要性について多くの住民が理解しており、また、災害等により若者の目が地方に向いている今、時代に即した活動のあり方や手法を見直していく。</p> <p>ウ. 本戦略が住民及び町職員に浸透し、コミュニティの具体的な行動につなげるために、住民の戦略策定への参画や協働のパートナーの活躍の場の創出、また町職員の人材育成に取り組んでいく。</p>

	<p>① 本戦略が住民及び町職員に浸透し、「自分ごと」として一層広く行動を促す取組を推進していく。</p> <p>② 具体的には、住民の戦略策定への参画や協働のパートナー(コミュニティ)の活躍の場を創出していく。</p> <p>③ コミュニティに解決して欲しい課題を明確にし、コミュニティの力を借りる、またはコミュニティを生み育てる機会の創出と「住民ができること」「町が担うこと」をセットにした事業づくりを推進していく。</p> <p>④ 住民をつなぐために、町職員のファシリテートやコーディネート能力の育成に引続き取り組む。</p>
--	---

## (2)人口ビジョン

成果	ア. 人口ビジョンの理念である「子どもたちの人口を維持していく」ことに対し、こどもセンター開設による子育て環境の整備、私立大日向小学校の開校による子育て世代の転入など、好ましい現象の出現があった。
課題	<p>ア. 総人口は減少を続け、令和元年 10 月 1 日時点で 10,334 人(長野県毎月人口異動調査)と平成 27 年から 852 人減少しており、第 1 期人口ビジョンで設定した目標人口との乖離が拡大している。</p> <p>① 自然増減では、死亡数が平成 23 年をピークに減少傾向に転じており、出生数については、平成 27 年度から平成 31 年度の平均値が 52 人と創生シナリオにおける年間出生数(令和2年:67 人)を大きく下回っている。出生率の低下と15~49歳の女性人口の減少により、出生数の減少は今後一層加速する見込みである。</p> <p>② 社会増減では、平成 27 年から平成 31 年の社会増減延べ数(転入者数-転出者数)の平均値がマイナス 64 人と転出超過となっている。</p>

## II 数値目標と重要業績評価指標(KPI)の進捗評価について

### 1. 進捗状況の評価方法

計画達成年度(平成31年度)時点の進捗状況を、以下の区分に従って評価しています。

進捗評価	評価内容
①	目標達成に向けて進捗している
	A 数値目標を定めており、現時点で目標を達成している
	B 数値目標を定めており、現時点で目標を達成していない
	C 数値目標を定めていない(集計方法を変更したことに伴い、適正な評価ができないものを含む)
②	現時点では、目標達成に向けた政策効果が必ずしも十分に発現していない
③	その他(現時点において、統計上実績値の把握が不可能なもの)

### 2. 進捗評価結果

基本目標における16の数値目標及び31の重要業績評価指標(KPI)について、進捗状況の評価しました。

#### (1) 数値目標

	①A	①B	①C	②	③	計(%)
基本目標Ⅰ	1(33.3)	1(33.3)	0(0.0)	1(33.3)	0(0.0)	3(100.0)
基本目標Ⅱ	3(60.0)	0(0.0)	0(0.0)	2(40.0)	0(0.0)	5(100.0)
基本目標Ⅲ	1(16.7)	1(16.7)	2(33.3)	2(33.3)	0(0.0)	6(100.0)
I～Ⅲ横断	2(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	2(100.0)
計(%)	7(43.8)	2(12.5)	2(12.5)	5(31.3)	0(0.0)	16(100.0)

※()内は構成比。パーセントの数字は小数点第2位を四捨五入しているため、合計100%にならない場合があります。

#### (2) 重要業績評価指標(KPI)

	①A	①B	①C	②	③	計(%)
基本目標Ⅰ	5(45.5)	3(27.3)	0(0.0)	3(27.3)	0(0.0)	11(100.0)
基本目標Ⅱ	5(62.5)	1(12.5)	2(25.0)	0(0.0)	0(0.0)	8(100.0)
基本目標Ⅲ	3(42.9)	4(57.1)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	7(100.0)
I～Ⅲ横断	2(40.0)	3(60.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	5(100.0)
計(%)	15(48.4)	11(35.5)	2(6.5)	3(9.7)	0(0.0)	31(100.0)

※()内は構成比。パーセントの数字は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

## 基本目標 I【地域コミュニティ】

「住み続けたい」という意思を尊重しすべての既存集落における居住機能を担保

基本的方向	<p>たとえ高齢者のみの小集落となっても、住み続ける意思があるうちは、そこに住み続けられる環境を、様々な地域コミュニティの力で担保することを目指しましょう。</p> <p>そのためにまず、今地域コミュニティが置かれている実態をみんなで把握し、集落運営の支援や必要な仕組みの検討を行います。</p> <p>さらに、町区の機能に関すること以外に、住民相互や町との協働によるケア体制の強化、U・Iターンや定住促進、集落の歴史や文化を大切に「住みやすい」、「住み続けたい」地域コミュニティの維持・継承、創造を目指しましょう。</p> <p>特に、出産・子育て世代の女性が住み続けたいくなる集落、その力が十分に発揮される集落を創りましょう。</p>
-------	---

具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域コミュニティの実態把握、集落運営や組織再編のための支援</li> <li>○地域コミュニティによるケア体制の強化</li> <li>○地域コミュニティが主体の人口定着、U・Iターン促進に係る取組への支援</li> <li>○地域コミュニティが取り組む、集落の歴史・文化・行事・景観・まちなみの継承や形成の支援</li> </ul>
--------	---

数値目標の進捗状況 ※「(年)」の記載がないものは「年度」を示す。(以下同じ)								
指標目標	評価							進捗評価
	基準値	H27	H28	H29	H30	H31	目標値	
住民の居住地区満足度	①集落別:別冊資料参照(H27)	同左	—	—	—	集落別:別冊資料参照	過半数の集落で増加(H31)	①B
	②全体平均:65.1%(H27)	同左	—	—	—	全体平均:67.0%	基準値以上(H31)	①A
人口の社会増減延べ数	▲228人 H22-26(年)	2人	▲85人	▲97人	▲106人	▲38人 累計 ▲324人 H27-31(年)	▲100人 H27-31(年)	②



<p style="text-align: center;">成果</p>	<p>ア. 集落点検事業として、全区対象にアンケート及びヒアリング調査を実施し、その結果を集落カルテにまとめ、町として初めて地区の現況を多角的に把握した基礎的資料が整備できた。続いて、集落の対話を促進し、5地区で集落点検が行われた。そのうち2地区では住民の自主活動が始まった。地区の主体性を促すために、区長会主催の学習会や集落新聞の発行など成果に導く働きかけを行った。</p> <p>イ. 地区公民館を活用した介護予防拠点活動、地域の担い手育成をめざす地域づくりフォーラムや学習会の開催など、地域によるケア体制の構築に向けた取組を行ったことにより、地域による支え合いの機運を醸成するなど成果に導く取組を行った。</p> <p>また、チャレンジデーを3年間実施したことにより、運動の必要性を啓発することができ、わずかではあるが住民の運動比率が向上した。</p> <p>ウ. 町消防団が地域防災力の向上を掲げて作成した全地区の「災害時住民支えあいマップ」が令和元年(2019年)台風19号災害時に高齢者の避難誘導に役立ったことなど、地域で支え合う体制の整備に向けた成果が生まれ始めている。</p> <p>エ. 空き家所有者への活用意向アンケート及び区長、地域おこし協力隊と連携した空き家の発掘、空き家対策事業補助金制度創設により、空き家利活用による人口定着、U・Iターンの促進が図られた。また、地域おこし協力隊による空き家を地域交流拠点とし活用する取組が生まれた。地域おこし協力隊を「移住支援員」とし、移住先輩者、協力隊OB等とのネットワークを生かし、移住希望者の相談に応じることができた。</p> <p>オ. 文化芸術三本の矢(奥村土牛記念美術館、宮田三郎木版画、スタインベルクピアノ)のそれぞれの特徴を活かし、PRを含め町民に親しまれる事業を展開したことにより、文化芸術資源を中心としたコミュニティのつながりを形成することができた。また、地域コミュニティの一助として重要な役割を担っている町内に53ある分館の活動に対して町から補助金を交付するほか、補助金以外の支援として、障がい者スポーツ「ボッチャ」をはじめスマイルボウリングなどのニュースポーツ用品の貸出しを行い、コミュニティを下支えすることができた。その他に、黒澤酒造周辺でのイベントの開催など、歴史的なまちなみや景観の保全、活用に向けた成果に結びつく取組も行われた。</p>
<p style="text-align: center;">課題</p>	<p>カ. 住民自身が“自分で何とかしたい”と内発的に思うことができる対話の場の設計・運営が不十分であった。また、区長会主催の学習会では地域の課題・悩みは共有できたが、集落同士が相互に協力するようなネットワークの形成はできなかった。併せて、住民の主体性を醸成したり、次代を担う地域リーダーを育成したりすることができなかった。</p> <p>キ. 地域で支え合う体制の整備に向け、各分野で所有している情報(地区防災マップ、要支援者情報、災害時住民支えあいマップ)の活用方法(活用、共有、更新)の検討ができなかった。</p> <p>ク. 空き家バンク成約件数の目標値は達成したが、私立大日向小学校開校の影響により、県内外から住まいを求める人の数は増加しており、空き家の利活用を含めた更なる住まいの確保が課題である。また、空き家掘り起しの取組を進める中で、相続登記未了による権利</p>

	<p>関係の問題や、所有者の意思確認ができないケースなど解決に時間を要する課題が浮き彫りになってきた。</p> <p>ケ. 人口減少と高齢化により伝統行事や風習、祭りなどが減少し、スポーツ大会等へ参加することが困難になる分館が増加することが懸念される。</p>
<p>今後の 取組方針</p>	<p>ア. 町は、地区に解決してほしい課題を明確にし、住民は、具体的に身近で困っていることや困っている人の状況を共有する場をつくり、解決に向けた小さな行動を起こしていく。各集落は、それぞれが抱える課題を明らかにし、区長が交代しても解決に向けた行動が継続できるように、地区計画(区の将来像や方向性)の策定に取り組む。その結果、時代に即した集落活動の最適化や、課題・テーマによっては区同士が連携・協力して解決を図る仕組みづくりを目指す。</p> <p>イ. 広域的な高齢者の生活支援サービスの検討を加速させるため、関係機関の事務担当レベルによる新たな協議体の発足、担い手養成講座の開催により、有償ボランティアの人材確保についても検討を行う。また、引続き、地区公民館を活用した地域の居場所づくりを推進していく。</p> <p>ウ. 町消防団により、災害時住民支えあいマップの更新を毎年行い、精度を高め、有事の際に備える。また、災害時住民支えあいマップは災害に備える大切なツールであるため、要支援者情報提供に関する制度と情報を共有しながら、内容の充実を図っていく。</p> <p>エ. 引続き、集落や住民との協働により空き家を発掘し、既存空き家や将来利用予定のない住宅を利活用へ導くためには、所有者に対する情報提供と相談体制の構築が必要なため、セミナーなどを通じ、空き家について考える機会を提供し、意識の醸成を図る。また、民間や地域住民が主体となり住まいの確保を推進する取組に対する支援を検討していく。</p> <p>オ. 引続き、文化芸術の資源を有効活用したつながりを継承し、分館の活動事業については、活動を通して地域コミュニティの発展に大きくつながるため、引続き支援を続けていく。</p> <p>カ. 上記ア.のとおり。</p> <p>キ. 上記ウ.のとおり。</p> <p>ク. 上記エ.のとおり。</p> <p>ケ. 上記オ.のとおり。</p>

重要業績評価指標 (KPI)		集落点検実施数				
基準値	—		目標値	8 地区		進捗評価
	—			H27-31		
実績値 (累計)	H27	H28	H29	H30	H31	①B
	—	2 地区	0 地区	3 地区	0 地区 累計 5 地区	
重要業績評価指標 (KPI)		地域づくり協議会(仮称)の設置				
基準値	—		目標値	地域づくり協議会の設置		進捗評価
	—			—		
実績値	H27	H28	H29	H30	H31	②
	—	未設置	未設置	未設置	未設置	
重要業績評価指標 (KPI)		生活支援コーディネーターの人数				
基準値	—		目標値	2 人		進捗評価
	—			H27-31		
実績値 (累計)	H27	H28	H29	H30	H31	①A
	—	0 人	1 人	0 人	1 人 累計 2 人	
重要業績評価指標 (KPI)		災害時支えあいマップ作成地区数				
基準値	58 地区		目標値	全地区を維持		進捗評価
	H26			H31		
実績値	H27	H28	H29	H30	H31	①A
	—	48 地区	48 地区	58 地区	58 地区	
重要業績評価指標 (KPI)		健康診断問診項目(※)該当者割合 ※1 回 30 分以上の軽く汗をかく運動を週 2 日以上、1 年以上実施しているかという項目に対し「はい」と回答				
基準値	23.5%		目標値	27.0%		進捗評価
	H26			H31		
実績値	H27	H28	H29	H30	H31	①B
	21.0%	21.8%	22.3%	28.0%	25.1%	
重要業績評価指標 (KPI)		障がい者一般就労への移行者数				
基準値	3 人		目標値	5 人		進捗評価
	H22-26			H27-31		
実績値 (累計)	H27	H28	H29	H30	H31	①B
	—	0 人	1 人	1 人	1 人 累計 3 人	

重要業績評価指標 (KPI)		空き家バンクの成約件数				
基準値	2 件		目標値	2 件		進捗評価
	H26-27			H28-31		
実績値	H27	H28	H29	H30	H31	①A
	—	0 件	3 件	14 件	12 件 累計 29 件	
重要業績評価指標 (KPI)		25～39 歳の女性の社会増(人口)				
基準値	社人研推計:621 人		目標値	創生シナリオ:654 人		進捗評価
	R2(年)			33 人(R2(年))		
実績値	H27(年)	H28(年)	H29(年)	H30(年)	H31(年)	②
	—	626 人	590 人	535 人	497 人	
重要業績評価指標 (KPI)		移住者サポーターの数				
基準値	—		目標値	8 人		進捗評価
	—			H27-31		
実績値	H27	H28	H29	H30	H31	②
	—	—	—	—	—	
重要業績評価指標 (KPI)		町への愛着度				
基準値	63.0%		目標値	基準値以上		進捗評価
	H27			H31		
実績値	H27	H28	H29	H30	H31	①A
	63.0%	—	—	—	72.6%	
重要業績評価指標 (KPI)		分館活動補助団体数				
基準値	全分館		目標値	全分館を維持		進捗評価
	H26			H31		
実績値	H27	H28	H29	H30	H31	①A
	—	全分館	全分館	全分館	全分館	

## 基本目標Ⅱ【子育て・教育コミュニティ】

「住み続ける誇り」を養い「選ばれる町の魅力」をもたらす子育て・教育環境の形成

基本的方向	<p>子育て中の両親と、それを取り巻く周囲の人々の世代を越えたコミュニティの力で、充実した子育て・教育環境を形成しましょう。</p> <p>親子に寄り添うコミュニティの拠点「こどもセンター」の充実と、生きる力を涵養する保育や乳幼児教育、子どもたちが佐久穂町に住む魅力に気づき動機を養う愛郷教育・キャリア教育、スポーツや文化等の校外活動を住民みんなの力を合わせて推進し、佐久穂町を選び、産み、育ち、住み続ける誇りと魅力を持つコミュニティにすることを目指しましょう。</p>
-------	---

具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「こどもセンター」や親子に寄り添うコミュニティの充実</li> <li>○地域で支える、生きる力を涵養する保育、乳幼児教育</li> <li>○子どもたちが佐久穂町に住む魅力に気づき動機を養う愛郷教育、キャリア教育の推進</li> </ul>
--------	---

数値目標の進捗状況								
指標目標	年度別評価							進捗評価
	基準値	H27	H28	H29	H30	H31	目標値	
生産年齢人口(15～64歳)における「子育て・教育環境魅力指数」	①3.45(H27) (佐久穂町が行っている施設や内容)	同左	—	—	—	3.75	3.65 (H31)	①A
	②3.11(H27) (町以外による教育や交流)	同左	—	—	—	3.45	3.45 (H31)	①A
16～19歳における「継続居住+Uターン意向」	25.9% (H27)	同左	—	—	—	36.0%	基準値 以上 (H31)	①A
合計特殊出生率	1.58人 (H20-24)	—	1.28人 (H25-28)	1.29人 (H25-29)	1.191人 (H26-30)	1.158人 (H27-31)	1.53人 (H25-29)	②
出生数	370人 (H22-26合計)	61人	51人	57人	48人	45人 累計 262人	340人 (H27-31合計)	②

<p>成果</p>	<p>ア. 「こどもセンターさくほっこ」が整備されたことにより、乳幼児とその保護者を対象とした行事が増加し、保護者同士のつながりが生まれ、新たなコミュニティが形成されるなど成果が生まれ始めている。また、町外の利用者も多く、健診利用もあり、第1子の保護者も利用しやすいと子育て世帯から高い評価を得ている。</p> <p>イ. 子育て支援員研修修了者によるコミュニティ「しらかばキッズ」が発足し、町主催のイベント等における託児スタッフとして活躍している。</p> <p>ウ. 町内全ての保育所が「信州型自然保育認定制度」(通称「信州やまほいく」)を実施しており、特色ある取組として町内外に情報発信することができた。また、町立保育園においては、まゆ玉作り、節分の豆まき、よもぎ団子づくり等の伝統行事を保育活動として取り組んだことにより、世代間の交流及び地域との結びつきを深めるなど、成果があった。</p> <p>エ. 学校、保護者、地域、学校応援団が連携した佐久穂小・中学校の運営が安定し、特色ある教育「佐久穂教育(小中一貫教育、英語教育、キャリア教育)」が進んだ。森林林業体験学習や学校給食では、文部科学大臣表彰を受賞するなど、町外からも評価を得ている。</p> <p>オ. 「私立大日向小学校」の開校や「森のようちえん ちいろば」の事業拡大などにより、町内における子育て・教育環境の選択肢が豊かになった。</p>
<p>課題</p>	<p>カ. 子育て支援員研修修了者の中には、子育て世代や働き世代が多く、イベント等における託児スタッフの人員確保が困難である。</p> <p>キ. 今後も地域と学校が連携したキャリア教育を継続していくためには、中核を担う人材の確保が必要であるが、人材が不足している。</p>
<p>今後の取組方針</p>	<p>ア. 保護者の妊娠、出産、育児に関する不安の解消と子どもの良好な育成環境等の実現のためには、妊産婦及び乳幼児等への母子健康保健分野と子育て支援分野の両面から切れ目なく継続的・包括的な支援が必要であり、より一層の連携体制の構築に取り組む。また、発達を視野に入れながらの育児や養育に対する早期の支援体制を整備するために必要な支援を行っていく。</p> <p>イ. 引続き、子育て支援員研修修了者の活躍の場を創出すると共に、長野県が主催している「子育て支援員研修」を周知し参加を促すことによって、イベント等における託児スタッフの人員確保に取り組んでいく。</p> <p>ウ. 引続き、保育所の特色ある取組を推進し、町内外に対しての見える化に取り組んでいく。</p> <p>エ. 引続き、佐久穂教育を継続しながら、子どもたちが人のつながりや地域に根差した仕事を学ぶため、校外での交流を促す機会の創出を検討していく。また、キャリア教育の中核を担う人材の確保及び育成に取り組む。</p> <p>オ. 学校、保育園、幼稚園と地域が一体感を形成し、地域で学校等を支え、まち全体で地域の将来を担う子どもたちを育成する取組を推進していく。また、町内における子育て・教育環境の選択肢の豊かさを広くアピールしていく。</p> <p>カ. 上記イ.のとおり。</p> <p>キ. 上記エ.のとおり。</p>

重要業績評価指標 (KPI)		子育て支援コーディネーターの人数				
基準値	—		目標値	1人		進捗評価
	—			H31		
実績値	H27	H28	H29	H30	H31	①A
	—	0人	1人	3人	3人	
重要業績評価指標 (KPI)		子育て支援員研修の参加人数				
基準値	2人		目標値	20人		進捗評価
	H27			H28-31		
実績値 (累計)	H27	H28	H29	H30	H31	①A
	—	23人	0人	0人	0人 累計23人	
重要業績評価指標 (KPI)		「こどもセンター」月平均利用者数				
基準値	1,700人		目標値	1,800人		進捗評価
	H27			H31		
実績値	H27	H28	H29	H30	H31	①A
	—	1,948人	2,196人	2,746人	2,924人	
重要業績評価指標 (KPI)		病児病後児保育利用人数				
基準値	—		目標値	10人/年		進捗評価
	—			H31		
実績値	H27	H28	H29	H30	H31	①B
	—	7人	4人	15人	3人	
重要業績評価指標 (KPI)		保育園の行事(※)へ参加する大人の数 ※運動会等の行事を除く地域交流会の参加人数				
基準値	17人		目標値	45人/年		進捗評価
	H27			H31		
実績値	H27	H28	H29	H30	H31	①C
	131人	140人	166人	154人	151人	
重要業績評価指標 (KPI)		学校応援団登録人数				
基準値	120人		目標値	130人		進捗評価
	H27			H31		
実績値	H27	H28	H29	H30	H31	①A
	—	140人	140人	157人	144人	

重要業績評価指標 (KPI)		キャリア教育参加団体数				
基準値	71 団体		目標値	100 団体		進捗評価
	H27			H31		
実績値	H27	H28	H29	H30	H31	①A
	—	110 団体	114 団体	124 団体	124 団体	
重要業績評価指標 (KPI)		わくわくチャレンジ事業参加人数				
基準値	434 人/年		目標値	650 人/年		進捗評価
	H26			H31		
実績値	H27	H28	H29	H30	H31	①C
	—	130 人	122 人	148 人	134 人	



### 基本目標Ⅲ【地域経済創造コミュニティ】

#### 地域に根差した「しごと」、「なりわい」の起業や事業育成環境の形成

基本的方向	<p>雇用創出というより、地域に根差した「しごと」、「なりわい」を重視し、若い人々の起業や事業をコミュニティの力で育成。主に1次産業や食品加工で外貨を獲得し、コミュニティの中でできるだけ回す文化を醸成しましょう。</p> <p>その為にまず、自然や人、インフラや産業等の地域資源を棚卸し、コミュニティによる事業ふ化の仕組みづくりを行いましょう。</p> <p>さらに、地域に根差した「しごと」や「なりわい」を育て、まちの成長に役立つ地域ブランドを構築。こうして地域みんなが稼いだお金を地域で循環させ地域経済を創造しましょう。</p> <p>特に、出産・子育て世代の女性による「しごと」継続を容易にし、その能力が十分に発揮されるコミュニティを作りましょう。</p>
-------	---

具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域資源棚卸と地域に根差した事業ふ化の仕組みづくり</li> <li>○地域の資源や町のくらしに根差すしごと、産品、風土のPRとブランド化</li> <li>○地域みんなが稼いだお金を地域で循環</li> </ul>
--------	--

数値目標の進捗状況								
指標目標	年度別評価							進捗評価
	基準値	H27	H28	H29	H30	H31	目標値	
新たな事業の起業	32件 (H22-26)	9件	1件	5件	9件	5件 累計 29件	36件 (H27-30)	①B
消費者の産品購入意欲度	18.6 (H27)	同左	19.7点	18.9点	18.1点	23.2点	21.4点 (H31)	①A
主に町内で買い物する家庭の割合	45.4% (H27)	同左	-	-	-	37.6%	50.0% (H31)	②

過去3年間の住宅の購入・リフォームの際の町内への発注棟数	①購入 (新築) 42棟(40.8%) (H25-27)	同左	-	-	-	※25棟 (32.5%)	51棟 (H28-30)	①C
	②リフォーム (増改築) 93棟(64.1%) (H25-27)	-	-	-	-	※28棟 (52.8%)	基準値 以上 (H28-30)	①C
生産年齢人口(15～64歳)	6,114人 (H27)	同左	5,831人	5,608人	5,400人	5,238人	5,600人 (H31)	②

※平成27度、令和元年度では調査方法が異なるため、割合により算出。

成果	<p>ア. 佐久穂町商工会と連携した創業塾の開催や女性の就労支援、小海町との合同就職相談会の開催などにより、平成 27 年度から平成 31 年度までの5年間における新たな事業の起業数が 28 件と、成果が徐々に現れ始めている。</p> <p>イ. 佐久穂の森構想が策定されたことにより、定量的な森林整備の推進、情操教育の一環としてカラマツ材を利用した出生祝い品の贈呈、森林資源の新たな活用方法の検討など、まちに根差した林業を守り、森林を次世代に継承していくための成果があった。</p> <p>ウ. 農産物のブランド化に向け、(一社)アンテナさくほが生産者と連携し、首都圏でのプロモーション及び販売の支援を実施。また、町・生産者がプルーンのブランド化に向け(株)新宿高野と連携した首都圏での PR イベントの開催など、成果につながる取組が行われた。</p> <p>エ. 町内建築関連業者による「さくほの家造り職人ネット」が発足し、住宅の完成見学会の開催や無料点検活動を行うなど、町内での受注力を高めるための取組が始まった。また、住宅用地取得・住宅新築助成金の創設により、地域資源であるカラマツ材や鉄平石を使用した住宅建築における地産地消の動きが生まれ始めた。</p>
課題	<p>オ. 町内の数企業では、夏休みなどに学生のインターシップを受入れ、仕事内容や魅力などを伝える取組を始めているが、若い世代の地域の求人情報に対する興味は喚起できていない。</p> <p>カ. 果樹、花卉農家の高齢化に伴う後継者不足及び初期投資が課題となる果樹・花卉への新規就農支援が不十分であった。</p> <p>キ. 「主に 1 次産業や食品加工で外貨を獲得し、コミュニティの中でできるだけ回す」という基本的方向に対し、外貨の獲得を客観的に把握するための数値目標の設定がされていなかった。</p>
今後の取組方針	<p>ア. 平成 30 年度から進めている創業支援等事業計画の内容を更新すると共に、創業者同士、創業希望者と地元企業などによる事業連携等により、いかに外貨を獲得できるか検討していく。また、長野県の女性就労支援事業との連携による、子育て世代の就労支援から地元企業の人材不足の解消につながる取組や、町内の求人情報を若い世代に届けるための施策の検討を行う。</p> <p>イ. 引続き、佐久穂の森構想に基づき、エリア毎に適した森林整備、情操教育、森林資源を活用した産業化に向けた取組を推進していく。</p> <p>ウ. ブランド力のある農産物や観光資源など中核を担う資源を磨き上げ、旗印となる商品を PR しつつ、安定した商品・サービス供給ができる体制づくりを推進していく。</p> <p>エ. 引続き、住宅用地取得・住宅新築助成金等により、住宅建築における地域資源の地産地消を促す。また、市場開拓や受注力を高める取組を「さくほの家造り職人ネット」にて議論し、磨き上げをしていくほか、家づくりの現場を町内の建築関連事業者の多様な知識や技術の集積の場と捉え、町内の子どもたち向けの仕掛けを展開できないか検討をしていく。</p> <p>オ. 上記ア.のとおり。</p> <p>カ. 果樹、花卉農家の事業継承や新規就農者とのマッチングの仕組みづくりを行う。</p>

	キ. 地域でお金を循環させる経済の仕組みを創造するため、外貨の獲得を客観的に把握するための数値目標の設定を検討する。
--	--

重要業績評価指標 (KPI)		新規就農者の数				
基準値	4人		目標値	5人/年		進捗評価
	H27			H31		
実績値	H27	H28	H29	H30	H31	①B
	4人	1人	2人	2人	1人	
重要業績評価指標 (KPI)		果樹に関する入植者数				
基準値	0件		目標値	2件		進捗評価
	H27			H28-31		
実績値 (累計)	H27	H28	H29	H30	H31	①B
	0件	0件	0件	1件	0件 累計1件	
重要業績評価指標 (KPI)		地域資源の活用調査及び活用研究数				
基準値	-		目標値	2件		進捗評価
	-			H28-31		
実績値 (累計)	H27	H28	H29	H30	H31	①A
	-	2件	0件	0件	0件 累計2件	
重要業績評価指標 (KPI)		ふるさと納税者数				
基準値	9人		目標値	114人/年		進捗評価
	H26			H31		
実績値	H27	H28	H29	H30	H31	①A
	-	70人	209人	391人	940件	
重要業績評価指標 (KPI)		ふるさと納税による来町者数				
基準値	0人		目標値	10人/年		進捗評価
	H26			H31		
実績値	H27	H28	H29	H30	H31	①A
	-	3人	10人	13人	17人	
重要業績評価指標 (KPI)		「さ・く・ほの家」建築軒数				
基準値	-		目標値	5軒		進捗評価
	-			H28-31		
実績値 (累計)	H27	H28	H29	H30	H31	①B
	-	0軒	0軒	0軒	1軒 累計1軒	

重要業績評価指標 (KPI)		小水力の発電箇所				
基準値	0 箇所		目標値	1 箇所		進捗評価
	H27			H28-31		
実績値	H27	H28	H28-29	H28-30	H28-31	①B
	-	0 箇所	0 箇所	0 箇所	0 箇所	

## 基本目標【ⅠⅡⅢ横断】

### コミュニティを横断的に下支えする基盤の形成

基本的方向	<p>町内外に向けたコミュニケーションや魅力の発信を活発化する様々な取組により、町外に向けた地域コミュニティ、子育て・教育コミュニティ、地域経済創造コミュニティを支援する施策です。</p> <p>プロジェクトマネージャーや町の部門横断的チームを設置し、横断的な支援策等により、多様なコミュニティの展開を支援しつつ、本戦略を推進し進捗を管理する施策です。</p>
-------	--

具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コミュニティの魅力やニーズに対応した情報発信によるコミュニケーションの活性化</li> <li>○コミュニティ創生戦略の推進体制の構築と進捗管理</li> </ul>
--------	---

数値目標の進捗状況								
指標目標	年度別評価							進捗評価
	基準値	H27	H28	H29	H30	H31	目標値	
コミュニティ活性化に係る指数	①71.5% (H27) コミュニティに属する人数割合	同左	-	-	-	78.7%	基準値以上 (H31)	①A
	②1.65件 (H27) 1人当たり所属するコミュニティ	同左	-	-	-	1.79件	基準値以上 (H31)	①A

<p>成果</p>	<p>ア. 町公式ホームページをリニューアルし、情報発信体制を強化したことで、閲覧数の増加につながり、町内に情報が届くようになった。また、令和元年(2019年)台風19号災害時などの緊急時にも、必要な情報を迅速にホームページにアップし、住民へ情報を伝えることができた。</p> <p>イ. 移住検討者向けガイドブック及び支援サイトを構築したことで、情報発信の強化が図られた。また、地域おこし協力隊が発信するブログ情報をサイトに集約することで、暮らしや農業、防災など多様な情報が個性ある切り口で発信され、これまでアプローチできなかった層に周知することができた。さらに、地域での人のつながりを形成するため、移住者を含む住民同士がつながる場(移住者交流会)の開催、さくほ通信の発行、同窓会支援補助金の創設などにより、町内外のコミュニケーションの促進が図られた。</p> <p>ウ. 多様なコミュニティ活動の充実・強化を図るため、コミュニティ提案型まち活性化事業補助金を新設したことにより、新たなコミュニティの形成や、既存のコミュニティによる新たな取組も生まれた。また、大学生等地域コミュニティ活動推進事業補助金を新設したことにより、町外の若者と地元住民によるコミュニティ活動を生み出すことができた。</p> <p>エ. 外部から経営管理能力の高い政策アドバイザーを起用することにより、観光ビジョンの策定、事務事業評価シートの改善、事務マニュアルの作成など、横断的課題に対する解決を推進することができた。</p>
<p>課題</p>	<p>オ. 町内のコミュニティ活動の取組などを情報発信できていないため、コミュニティ同士のつながりがあまり生まれていない。</p> <p>カ. 地域ブランド調査で一部成果が出ているものの、町の知名度・魅力度は依然として低い。また、関係人口の拡大に向けた情報の着眼点や情報発信の手法について十分な検討ができなかった。</p> <p>キ. 多様なコミュニティに対し、補助金以外の方法による支援ができていない。</p> <p>ク. 本戦略を支えるためには町による土台づくりが必要であるが、日々の業務に追われプロジェクトチームの設置などによる横断的な取組や人材育成ができなかった。</p> <p>ケ. 本戦略の認知度が低く、住民に取組があまり知られていない状況である。特に、町への定着を図りたい若い世代において、認知度が低く、ターゲットに適切に情報を届けるための仕組みが不十分であった。</p> <p>コ. 基本目標に対する施策の見直し、磨き上げが不十分であった。</p> <p>サ. 本戦略に基づく事業を着実に推進するためには、PDCAサイクルを確立することが必要であるが、一部の事業においては、効果検証を行うための客観的な数値目標、重要業績評価指標(KPI)の設定ができなかった。</p>



<p>今後の 取組方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア. 町内外のコミュニケーションの促進を図るため、町内におけるコミュニティの活動状況などを定期的に情報発信していく。また、町内に住む多様な人が、魅力的な情報発信を行うことができるような仕組みづくりや、ターゲットに適切に情報を届けるための手段について検討をしていく。</li> <li>イ. 情報発信を関係人口の創出の機会と捉え、全ての庁内部署において、「関係人口の拡大」に視点を置き、情報の着眼点や情報発信の手法について十分な検討を行った上で、施策に取り組む必要がある。また、ふるさと納税では、より工夫した商品開発や、地域とつながるような仕掛けを検討し、町とつながりのある人を増やしていく。</li> <li>ウ. 住民がコミュニティマネジメントを学ぶことができるような場の創出を検討していく。また、町は住民をつなぐために、町職員のファシリテートやコーディネート能力の育成に引き続き取り組む。</li> <li>エ. 戦略を推進するために、町職員のマネジメント機能の強化と政策形成能力を高めるよう、スキルアップに努める。また、各事業が前進するよう総合政策課からの後方支援を強化していく。</li> <li>オ. 上記ア.のとおり。</li> <li>カ. 上記イ.のとおり。</li> <li>キ. 上記ウ.のとおり。</li> <li>ク. 町職員が中長期的な課題に取り組めるように、包括委託やIT化の推進により、生産性の向上に努める。</li> <li>ケ. 上記ア.のとおり。</li> <li>コ. 第2期においては、総合戦略にて取り組むべき事業を明確にし、担当課と協働のパートナーによる議論を行うことにより実行性を高めていく。</li> <li>サ. 本戦略に基づく事業を着実に推進するため、適切な効果検証を行うための数値目標、重要評価指標の設定を行う。</li> </ul>
---------------------	--

重要業績評価指標 (KPI)		町ホームページ訪問者数				
基準値	7,489 人/月		目標値	15,000 人/月		進捗評価
	H27			H31		
実績値	H27	H28	H29	H30	H31	①B
	7,489	9,391 人	13,242 人	11,728 人	11,783 人	
重要業績評価指標 (KPI)		情報接触度ポイント((株)ブランド総合研究所 地域ブランド調査)				
基準値	1.7 点		目標値	9.0 点		進捗評価
	H27			H31		
実績値	H27	H28	H29	H30	H31	①B
	1.7 点	3.2 点	3.3 点	2.4 点	4.0 点	
重要業績評価指標 (KPI)		移住定住PR・セミナー等の実施による移住者数				
基準値	1 世帯		目標値	2 世帯/年		進捗評価
	H26			H31		
実績値	H27	H28	H29	H30	H31	①A
	-	0 世帯	4 世帯	6 世帯	13 世帯	
重要業績評価指標 (KPI)		政策研究所の設置				
基準値	-		目標値	政策研究所の設置		進捗評価
	-			H31		
実績値	H27	H28	H29	H30	H31	①A
	-	設置	設置	設置	設置	
重要業績評価指標 (KPI)		提案型補助金活用団体数				
基準値	-		目標値	20 団体		進捗評価
	-			H28-31		
実績値	H27	H28	H29	H30	H31	①B
	0	2 団体	3 団体	4 団体	3 団体 累計 12 団体	